

銅賞

知らぬ間の人権侵害

横須賀市立池上中学校 三年 横上 千恵莉

障害を持っている人への思いやりについてももう一度考え直す必要があると思います。

いつも学校などでは「障害を持つ人に対して、親切にすることや手をかしてあげることとはとても良いことだ」と教わっています。

なので私達は、自分のできることをやってあげたり、サポートすることを、相手は喜んでくれるだろう、と思っているのではないのでしょうか。

しかし相手の立場になってみると、迷惑ではないけれど、少し嫌な気持ちになってしまう「思いやり」の形があると思います。

実際に私にも、嬉しいと感じた思いやりと嫌だと感じた思いやりがあります。

例えば、昼休み中に係の仕事をやっていたとき、私は次の授業の用意をするのを忘れていました。そのことに気づいた友達が「次の用意しといてあげる」といって、ロッカーまで取りに行ってくれま

した。その時私は、嬉しい気持ちでいっぱいでした。

それと反対に、私は手が不器用で特に家庭科のミシンと料理が苦手です。そのミシンの授業の時、私は苦手を克服しようと頑張っていたのに班の人が私の物まで縫ってしまった事がありました。班の人は私が困っていると思っけてやってくれたのですが、私は「自分でやりたかったのに」と少し嫌な気持ちになりました。

障害を持った人達も、私と同じような感情を持ったことがあると思います。

私が障害を持っていると考えた時に嫌だと思うことは、自由に外出ができないということ。最近、ノンステップバスが増え、階段の所にはスロープが設置され、障害を持った人達が行動しやすい社会になりました。

しかし、このような社会になったにも関わらず、彼らの家族は「危ない、心配だ」といって、外出することを止めてしまいます。

このように、やってみたいことを危ないからといってチャレンジできないと、少し嫌な気持ちになります。

障害を持った人達にも、物事を自分で決める権利を持っています。それなのに私達の方でできる、できないを決めてしまうと彼らの意

見が尊重されていないことになり、たとえ家族でも知らぬ間に人権を侵しています。

しかし私達が彼らの行動をきめてしまっているということは既に相手の方が弱者と認識し、自分たちの意見をおしつけているということになるのではないのでしょうか。

人と人同士が本当に平等だと言うには、両者が意思を伝え合い、時には言い争いをする事ができなくてはいけないと思います。片方が一方的に、というのは、自分の中で立場の優劣を決めているという事になってしまい平等ではなくなっています。

このことから「障害を持っている人のことを手伝う」という事は良いけれど、行動に移す前に、相手の意見を聞いて、どのような事をすればいいのか考え、自己満足で終わらないように、両者が良い気持ちになる手伝いをしていくことが大切だと思います。

自分でもそのように接するのは、難しいと分かっているけれど、今自分にできること、例えば手伝う事ができなかつたら仲良くなる事などを頑張ろうと思います。

今回の作文を通して分かったことがあります。それは人権の脆さです。人権というのは簡単に侵されてしまう権利で私自身も侵して

いるし、侵されていると気付きました。そんな中人権を守るには一人一人が人権を理解し大切にしなければいけません。なので私もこれからは行動、言動に気を付けたいです。

最後に、今日本では健常者と障害者という風に呼ばれています。小さい事かもしれないけれど、それも差別ではないのかなと思います。障害者と言われて嬉しくなる人はいません。それなのに社会ではその呼び名が定着していて、彼らにとって過ごしにくい社会になっています。

どんな人でも過ごしやすい、差別のない社会をつくっていかなくてはいけません。その為には、今私達ができる「両者が納得する思いやりの形」という小さな事から、人権侵害や差別を無くしていかなければいけないと思います。